

表紙裏 自由の学校（新しき世界へ 1971年7月号）

桜沢如一

それは教育と云わないほうがいいかもしれない。何故ならそれは教育の様に形にはまった知識を、機械の様に柔い幼い子供たちの頭に押しつけるものではないから。

それは学校と云うよりグラウンド、いやグラウンドと云うより「広い広い果てのない大自然の曠野」と云った方がいい。森あり、丘あり、谷あり、鳥も鹿も、熊も狐もみんな遊び友達である。神でさえ兎や蛇の様に親しい。それは大自然と云うより宇宙グラウンドと云った方がいいだろう。新しい学校には登校時間も、授業のベルもない。毎朝、目が醒めると直ぐ楽しい見学旅行、冒険旅行が始まる。楽しいピクニックだ。一時間、一時間、一分、一分が楽しくて堪らない。歌と笑い、スリルと歓びの連続である。

（「天国の鍵」より）

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください